

# 地域を知ろう(44) 民話・伝説 No.24 商店街を守る庚申様

## 商店街を守る庚申様

高円寺駅北口の純情商店街を通り、カギの手の道路を店に添って左へ、又すぐ右へ行くと庚申通り商店街です。そのまま行けば早稲田通りに突き当たります。

庚申様はこの商店街中程の東側、高円寺北二丁目三十八番地にあり、庚申祠と書かれたお堂の中を覗くと、笠のついた庚申塔があります。

昔、純農村地帯であったころ、畑の真ん中で人々の信仰を集め親しまれていたので、残念なことに、大正十二年の関東大震災で倒れてしまいました、それまで南を向いていた塔は西向きになったそうです。つまり極楽浄土の方に向きを変えたのだそうです。その上、大東亜戦争の大空襲によって石塔も地域の人々と共に被災してしまいました。高熱で焼かれた塔の周辺は、はじけた文字を読みとること

は難しいでしょうが記録には「奉待庚申二世安樂所、正徳六丙申年三月吉祥日（一七一六年）高円寺村原講中十人」と彫つてあったそうです。原とはこの付近一帯の旧地名です。

正徳六年といえは七月に亭保元年と改元された年で、將軍吉宗の時代に庚申塔は村の人々が庚申講という講をつくり悪病退治と村民安全を願つて十人の有志が中心となつて建立されたもので、道教申様は中国の道教思想から入ったといわれ、表面には靑面金剛という恐い顔をした神様が髪を逆立て目を三角に吊り上げて、足には邪鬼を踏まえています。一番下の台座付近には見ざる聞かざる、言わざるの三猿が刻まれているのが一般です。

大黒庚申堂とも言われているこの庚申様は、戦災の為破損が大きく外

からは見にくいのですが、昭和十七年町の人々によつてお堂が造られ堂内左の石碑には由来が彫つてあります。今、繁華な街中で、人々の信仰を集め、商売繁盛を願う人にも大変大事にされています。

